

# チャレンジする Someone NEWS

## ~挑戦者の履歴書

### 第10回

# 劔持量人氏 (機械エンジニア)

## 若手エンジニアの選択&チャレンジ

一般社団法人 洸楓座 代表理事 佐藤建吉

連載・風力

### ▼チャレンジ&挑戦

今回紹介するのは劔持量人(けんもちかずと)氏、43歳である。私がかつて在職していた千葉大学の研究室の卒業生・修士である。本シリーズでは、副題の「挑戦者の履歴書」として、主に60歳以上の方々の人生路や生き方を紹介してきた。今回は新しい切り口として、人生を切り開いていくために現役の若手として、劔持氏を紹介する。同氏は、大学院を経て工学を専攻し、現在まで20年近くになるが、変化が多岐にわたる時代を生きて、さらに今後に向かう世代の一人として取り上げたい。

実は筆者は大学で、「技術史」や「技術史教育」という分野でも活動していた。イギリスのエンジニア、イサムバード・キングダム・ブルネ(1806~1885)や粉ひき風車をその対象としていた。いずれも筆者がイギリスに滞在中、興味と関心を見出したテーマであり、結構のめり込んで行った。ブルネルにおいては、

### ▼大学

劔持量人氏は、1978年(昭和53年)1月11日に、栃木県宇都宮市に生まれた。一人っ子で育ち、父の経営者としての経験が、幼少期から「挑戦」という言葉にシグネチャーを受けてきた。このころ、宇都宮高校を卒業し、千葉大学工学部機械工学科に入学した。縁あって、筆者の研究室で、小型風車(正しくはマイクログリーン)の翼の負荷応答を歩んでいる。それはまさに現在進行形であり、研究した。それは、騒音の発生、さらには疲労強度や破壊に対する検討

### ▼アメリカ留学

修士課程において1年間、研究した後、同氏は英語研修のためアメリカのコロラド大学に出掛けた。キャンパスはボールダーにある。その地は、有森裕子さんや高橋尚子さんなど、陸上競技の強化トレーニングを行うところとして知られており、海拔16555mの高地にある。筆者は、アメリカ国立再生可能エネルギー研究所NRELがデーンバーにあり視察を行ったので馴染みがある。



劔持氏家族(日光市)

ボールダーでクラスメートと(左下が劔持氏)



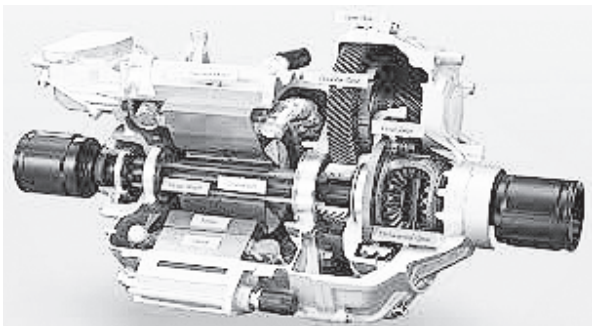
劔持氏は英語の強化に注力した。コロナの時代、このように生活が増えているが、既に20年前に実践り帰国した。その後1年間、大学院で風車翼の負荷について継続研究し、「発電用マイクログリーン」における翼変形の実験的検討」で、修士の学位を得た。2003年(平成15年)3月であった。アメリカ滞在中、2001年9月11日に、ニューヨークの世界貿易センターに航空機が突っ込むテロ事件があり、複雑な国際関係とその影響を現地で体験した。それは、英語のほか大学を出て、実社会で生き、暮らす際においても大きなシグネチャーとなったという。同氏は、大学院を修了し、地元宇都宮市内の自動車部品会社に就職した。

### ▼家庭と仕事

劔持氏は、43歳。孔子の教えでは、「四十にして惑わず、五十にして天命を知る」という世代である。これまで、自動車部品会社に就職し、駆動系を担当し、種々経験してきた。この間、会社引合と電話会議など、その場合でも、グローバルな動向に、そして製造や発注先が多国にわたり、英語での会議や交渉が日常になり、アメリカ留学で得たことが役に立っている。毎週、電話での海外開発拠点や取引会社と電話会議など、その場合でも、グローバルな考えや体験が業務を推進させる。

その背景に、大学の時から関わりを得て、疲労強度設計のほか、潤滑や耐久性の課題などの動機づけがあるとするは嬉しい。その業務としては、自動車メーカーを依頼主として、その設計要件に応えながら、①品質、②コスト、③納期の三つを押さえることが要になる。年齢と経験を重ね、次第に直接の設計業務からプロジェクト・マネージャーとしての企画管理の仕事が業務となつていく。今日、その局面がグローバルな動向に、そして製造や発注先が多国にわたり、英語での会議や交渉が日常になり、アメリカ留学で得たことが役に立っている。毎週、電話での海外開発拠点や取引会社と電話会議など、その場合でも、グローバルな考えや体験が業務を推進させる。

EVのモーターとミッション(参考)



その背景に、大学の時から関わりを得て、疲労強度設計のほか、潤滑や耐久性の課題などの動機づけがあるとするは嬉しい。その業務としては、自動車メーカーを依頼主として、その設計要件に応えながら、①品質、②コスト、③納期の三つを押さえることが要になる。年齢と経験を重ね、次第に直接の設計業務からプロジェクト・マネージャーとしての企画管理の仕事が業務となつていく。今日、その局面がグローバルな動向に、そして製造や発注先が多国にわたり、英語での会議や交渉が日常になり、アメリカ留学で得たことが役に立っている。毎週、電話での海外開発拠点や取引会社と電話会議など、その場合でも、グローバルな考えや体験が業務を推進させる。

### ▼EV時代

コロナの時代、地方で暮らすことに再考が向けられているが、宇都宮は、東京にも近く、新幹線や高速道路の路線にあり、満足する地の利にある。周辺には、日光などの名所や温泉、その他の観光先もあり、海外の人にも人気である。街中には高層ビルはなく、空も高く空の見通しがい。過度でもなく子育てにもよく、仕事と家庭や個人の生活にはありがたい地である。

これまで経過した43年は、想えば速い。これからは50年や60年の人生があるが、その時間は、対数目盛のように益々速く

### ▼新しい時代を「くらしと生きる」

劔持氏も取り上げたが、まとめとして、卒業生に贈る言葉として、「人生の道を、歩み移動する快適空間として、のクルマを提供すること、をミッションとして、チャレンジし、プロジェクトして欲しい。」である。実は、筆者にも劔持氏と同世代の息子がおり、同じような考えや経験をしている。筆者としては、ヒアリングし、この世代には、ある面で共通な考えとなっているのかと、ある安堵感をもってこのコラムを綴った。